



保険薬局薬剤師としてのナビゲーター活動

がん医療ネットワークシニアナビゲーター 松田 陽子

2019年よりシニアナビゲーターとして活動しております松田陽子です。現在、薬剤師として熊本市内で保険調剤薬局に勤務しています。私は、2011年に乳がんを発症したサバイバーです。

乳がん発症を機に、患者として、がん相談支援センター、がんサロン、ハローワークなど、がん患者に必要な様々な窓口とのかかわりを持つようになりました。そういう背景もあり、【がんナビ】取得以前から、勤務する調剤薬局で受けた様々なご相談を、これらの窓口につないでいました。従って、【がんナビ】の活動は、『特別なこと』ではなく、『保険調剤薬局薬剤師の仕事の一部』であり、特に【がんナビ】を意識することなく、業務と捉えて対応してきました。



以下、がんナビとしての活動に相当すると思われる、薬局の窓口での対応の一部をご紹介します

1. 予防・早期発見について（がん検診奨励・受診勧奨から早期治療に結びついた）
2. がん告知を受けた患者さんへの精神的支援（拠点病院の相談員との連携で面談につなげた）
3. お薬手帳から拠点病院との連携へ（地域の連携ツールを併用し、多職種による情報共有）
4. がん患者さんの支持療法の支援（病院薬剤部との薬薬連携・歯科も含めた連携）
5. 電話でのフォローアップから、在宅患者さんの急変に多職種連携で対応。不測の事態を回避
6. 終末期の患者さんが希望する看取りを実現（多職種介入によるACP:人生会議の起点となった）
7. 治療と仕事の両立支援（がん患者さんの治療経過をみながら就労支援窓口への紹介）

（注：3. 4. 5 については薬剤師として医療介入も行っています）

本年度の診療報酬改定の基本的考え方では、保険調剤薬局に対して、『①地域医療に貢献する薬局』『②がん患者に対する薬局での薬学的管理』が求められました。

更に、国は2025年までにすべての保険薬局が『かかりつけ薬局』となることを目標としています。（注：かかりつけ薬局とは、薬の一元管理・24時間対応・在宅対応・多職種連携によるチーム医療の提供 が可能な薬局 のことを指します）

私の勤務する調剤薬局は常勤2名の小規模な薬局でしたが、多様な事例に関わってきました。

薬剤師の先生方には、是非、がんナビを取得し、地域のがん治療を支えていただきたいと思います。



また一方で、私は がんサロンを運営しています。コロナ禍で、がんサロンは、対面の開催が困難となりました。しかし、当初から、SNSを利用した情報発信や、メールや電話での個別相談などを行っていたこともあり、コロナ禍にあっても、その相談件数は減少することなく、むしろ増加しました。中には、海外からのご相談で、帰国困難となった方ご自身や、ご家族のがん治療についてのおたずねもあり、情報提供しました。一方で、ネット環境のない方には、可能な限り 電話でのご相談にも応じてきました。

こういった相談では、拠点病院の相談員さんとの協力が欠かせません。私から患者さんをご紹介することもあります。逆に、『病院ではなかなか話しづらいようなので、、、』と、相談員さんから面談を依頼されることもあります。このあたりは互いを補完し、良い関係を築くことができていると思います。

また、個人病院でがん治療を行っている患者さんについては、相談の場や情報に乏しい面があり、拠点病院の相談員さんの協力をいただいてサポートしています。



がんサバイバーシップ

- がんと告げられて生き抜く
あなたに必要なこと -

参加費
無料

当日参加
OK

ブ	座長	日本赤十字社 熊本健康管理センター所長 熊本大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター長	吉田 隆 先生 吉武 淳 先生
ロ	講演1	がんサバイバーの健康管理について	日本赤十字社 熊本健康管理センター所長 吉田 隆 先生
グ	講演2	緩和ケアの意思決定「人生会議」について	熊本大学病院 がんセンター 緩和ケアセンター長 吉武 淳 先生
エ	講演3	緩和ケアにおける歯科の役割について	熊本県歯科医師会 理事 三森 豊弘 先生
ム	講演4	がんサロンネットワーク熊本の活動	がんサロンネットワーク熊本 副代表 真見塚 定ゆみ 様
	講演5	あなたに寄り添う「かかりつけ薬局」	薬剤師/がん医療ネットワークシニアナビゲーター 松田 耀子 先生

先日 熊本市で、開催された、第15回緩和医療薬学会年会・市民公開シンポジウム【がんサバイバーシップ～がんと告げられて生き抜くあなたに必要なこと～】のシンポジストとして、【調剤薬局薬剤師】、及び【がんナビ】の立場で発言の機会をいただきました。このシンポジウムはWEB配信され、全国から視聴参加がありました。終了後は、すぐに相談依頼があり、中には、このようなご相談もありました。他県から視聴された方で、『自分の居住地にがんナビはいるのか？ かかりつけ薬局を持つことはできるのか？』とのお尋ねでした。すぐに、シニアナビのネットワークを使い、居住地のナビ（薬剤師）をご紹介し、かかりつけ薬局を持つまで繋げることができました。患者さんからは、『安心してこれからの治療を受けることができます』と、感謝の言葉をいただきました。

コロナ禍を機にネット利用が増えたことから、今後は、どこからでも情報にアクセスし、直接の面談などは居住地の担当者につなぐ、ということが増えてくると考えます。そのためには、ナビ同士の連携を強化してゆかねばならないと感じています。がんナビには、様々な職種の方がいらっしゃいます。医療だけでなく、それぞれの職種を生かしたアプローチができるというのが強みであると思っています。

実は、私は、歌い手としての顔も持ち合わせています。コンサートで、がんの啓発のお話を織り交ぜることもあれば、学校でのがん教育の中でコンサートをすることもあります。そのような関わりの中から、がんナビの活動につながる局面が多数あり、現在も継続して発信を続けています。医療の現場だけでなく、いかなる場面においても、常にアンテナを張っておくこと。少しのきっかけを大切にすること。これが、私のがんナビとしての活動の心構えです。まだまだ勉強不足ですが、これからも様々な場面で地道に様々な活動を続けてゆきたいと思っています。



2020年10月22日から24日まで第58回日本癌治療学会学術集会が京都で開催されました。大会長企画シンポジウム15「がん診療連携を変える認定ネットワークナビゲーター」というテーマのもと、がん拠点病院相談部門の南秀明様、地域で活躍されておられる調剤薬局薬剤師の中島美紀様、ピアサポーターの村上利枝の3名からシニアナビの実働を発表させていただきました。

翌2021年第59回日本癌治療学会学術集会が横浜市で開催され、がんナビに関わる企画行事はコミュニケーションスキルセミナーも含めて4セッション行われました。

2日目の教育セッションでは、片渕委員長ご発案によるナビ交流会「がんナビによるがんナビの会」の企画、運営、登壇の機会を頂きました。計画立案にあたり、当初はナビ、シニアナビの活動好事例を取り上げようとしていました。しかしそれでは、アンケート調査から浮かび上がっているナビ、シニアナビの「現場の生の声・叫び！」、「すなわち「頑張って資格を取ったものの十分な活動の場がない」という現状打破への方策、ロードマップを見出せません。がんナビが一步でも前に進めるような将来展望を図る企画立案が私達に課せられた役目ではないかと3人の想いが一致致しました。

そこで、色々な立場から演者を募ろうとナビゲーター制度におけるナビ同士のe-mailを活用した交流ツールである「ナビまる」で参加・演題発表を呼びかけました。その結果シニアナビゲーターで癌患者活動をされている佐々木佐久子様、訪問看護ステーション理学療法士でナビゲーターの石澤千穂子様、がん相談をされているナビゲーター佐藤千佳子様の3人の方々に演者をお願いすることになりました。学術集会では、以上3人のナビ・シニアナビからそれぞれの立場での活動報告や課題を紹介して頂きました。また現地あるいはオンラインでご参加頂きました皆様からもとても前向きで有意義なご発言やご意見を沢山頂きました。

皆様方からの頂いた貴重なご意見を何かの形にしたいと企画者（南様・中島様・村上）で相談し、「横浜ナビ宣言」を発信する運びとなりました。翌日「ナビと委員による相互交流会」でナビによる「横浜ナビ宣言」として以下の3項目が謳われました。

- ★ より多くの人に「がんナビ」を知ってもらおう！
- ★ それぞれの立場で患者さんと家族のために「がんナビ」を活かそう！
- ★ ナビ同士のつながりをより強く、可能性を広げよう！



がん診療連携・認定ネットワークナビゲーター委員会委員長で今大会第60回学術集会大会長の調先生に「横浜ナビ宣言」の発信のご報告と日本癌治療学会への今後のお力添えをお願い致しました。



Vol.66
2020 4

特別寄稿

第59回日本癌治療学会学術集会
認定がん医療ネットワークナビゲーター交流会
〜がんナビによるがんナビの会〜
／認定がん医療ネットワークナビゲーターと
委員による相互交流会 印象記

札幌医科大学がんセンター「富貴草」社団法人代表・がんナビ部 札幌副代表
北海道がんセンターがんナビ部委員
日本癌治療学会認定医療ネットワークシニアナビゲーター
村上利枝

今回、相羽先生（委員会顧問）のご尽力で、創刊66年に及ぶ癌に関する医学雑誌「癌の臨床」に日本癌治療学会学術集会のナビ交流会の記録を各演者からの特別寄稿論文として掲載して頂きました。また調先生、片淵先生、藤先生、佐々木先生はじめ委員会の先生方のご支援により「がんナビ制度」の周知やナビ取得者が少しでも各人の地域で連携が取れるようがん拠点病院にナビ通信の配布やナビ制度のご案内をして頂ける運びになりました。またナビの交流を深めるためにナビ制度委員会の渡邊清高先生、吉田稔先生、広報WG委員会田畑務先生が中心となり「東京がん医療ネットワークナビゲーター交流会」や「全国ナビまる交流会」を開催してナビ同士の交流を高めてくださっています。（日本癌治療学会HPにアップ）またそれに付随して静岡県では、ご自身もシニアナビを取得されました吉田雅行先生が「第1回静岡県がん医療ネットワークナビゲーター交流会」を6月29日に開催してくださいました。このように少しずつですが、活動が広がってきています。本当に感謝の言葉しかありません。次期第4期がん対策推進基本計画では、がん医療の均てん化、更なる癌患者支援の充実が求められています。それに答えるべき相談支援ネットワークづくりに皆様と情報共有し、がん患者、家族が地域でその人らしく生きられるよう、第60回学術集会のテーマの「絆」を合言葉にナビ、シニアナビが、一団となって力を合わせがん支援環境向上とがんナビ制度の発展に努めてまいりたいと思います。

末尾でございますが、日本癌治療学会、がん診療連携・認定がん医療ネットワークナビゲーター委員会に心から感謝申し上げます。また出版にあたりましてお世話になりました「癌の臨床」の篠原出版新社に御礼申し上げます。
今後とも宜しくお願い申し上げます。
2022.8.31現在

	シニア navi	シニア navi 申請者	navi	navi 申請者	e-LEARNI NG受講者	受講者数
北海道	10		34		6	41
青森県			8		1	9
岩手県					1	1
宮城県			1		2	3
秋田県	1		14		1	15
山形県	1		6		3	9
福島県	1		8		8	16
茨城県			4		0	4
栃木県			3		0	3
群馬県	10		16		13	37
埼玉県	7		13		26	41
千葉県	1		10	1	16	27
東京都	4		51	2	53	108
神奈川県	3		15	2	22	42
新潟県	1		5		7	13
富山県						0
石川県			1		3	4
福井県			1		2	3
山梨県					1	1
長野県			2	1	5	8
岐阜県	2		6		4	10
静岡県	1		11		4	15
愛知県	2		10	1	13	25
三重県	3		6		2	9

	シニア navi	シニア navi 申請者	navi	navi 申請者	e-LEARNI NG受講者	受講者数
滋賀県	4		3		5	9
京都府	2		3		2	6
大阪府	4		21	1	20	43
兵庫県	3		6		8	16
奈良県			3		1	4
和歌山県						0
鳥取県			1	1	1	3
島根県			1		1	2
岡山県	2		10		3	13
広島県	3		11	1	4	18
山口県			2		3	5
徳島県	1		1			1
香川県			3		0	3
愛媛県	1		8		1	9
高知県	1		3		2	6
福岡県	11		244		61	311
佐賀県	1		8		6	15
長崎県			14		13	27
熊本県	15		53		36	100
大分県	2		34		9	44
宮崎県			2			2
鹿児島県			4		7	11
沖縄県			2		6	8
合計	97	0	662	10	382	1100

編集：広報ワーキンググループ委員長：田畑 務(東京女子医科大学 産婦人科)
連絡先：一般社団法人日本癌治療学会 navi@jSCO.or.jp